

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600309		
法人名	有限会社 街の灯		
事業所名	グループホーム北白川		
所在地	京都市左京区北白川東平井町13		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&KijogyoCd=2670600309-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち・交流館京都」1階
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北白川の疎水辺りで、環境に恵まれた大きな民家を改造し、開設してから15年を超えました。この間、地域の方々や、ご家族にもご協力頂き、職員も育てて頂きました。軽度で力を発揮できる方や、10年を超える方の終末介護までと、幅の広い介護を行っています。医療連携も充実し大きな安心となっています。毎年開催するミニコンサートには、育児休業中の職員や退職した職員が遠方から子供連れで参加してくれました。ご利用者は家事や体操、ゲームや歌などを喜ばれ、天気の良い日には散歩に出かけ地域の方々とのお喋りを楽しみにされています。認知症になっても普通の暮らしを続けられるよう、支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム北白川は、有限会社「街の灯(まちのひ)」が平成13年8月に開設された。白川疎水通りに程近い静かな住宅街の中の一軒家である。入居者9名の少人数で家庭的な雰囲気の中で“自立した日常生活を過ごして頂きたい”という経営責任者の強い思いが込められている。開設前から地域住民とコンタクトをとり、グループホームの目的を説明して理解を求めてきた。爾来、地域住民との交流を深める努力を積み重ねた現在、地域住民にとって、“無くてはならない存在”になっている。入居者・家族・地域住民・職員が密なる関係作りが出来るように、働きやすい職場づくりにも努めた結果、退職した職員が事あるごとに集い、入居者と共に楽しいひと時を過ごす機会を持っている。元職員にとって“実家に帰る”という感覚に見える。健康管理の面からも、医療機関との連携がしっかり確保できている。薬剤師の協力で、服薬管理も出来ている。昔の面影を残した民家で、家族・地域住民・医療関係者・職員とに守られて、穏やかな日常生活を過ごされている入居者の姿が見られる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に掲げた「心と体にやさしい」という理念に加えて、医療連携や地域、ご家族の皆様と協力し、共に暮らす事を理念としています。管理者と職員は共有し、実践に向けて取り組んでいます。	事業所の理念に沿って、経営責任者・管理者・職員が協働して支援に努めている。入居者を中心に家族・地域住民・職員が同じ方向を目指して、お互いに協力しながら日々の支援に繋げている。入居者の穏やかな笑顔と職員のやさしい言葉がけなどから実践状況を理解することが出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも加入し行事に参加。近隣の緊急通報協力員もしています。散歩中にご利用者にも声かけや庭のお花を頂いています。地藏盆用のテントポール保管の協力をしています。	事業所の開設当時から、経営責任者が近在の住民との交流に努めたことから、現在では介護事業所というより、9人の住民が共同生活している一軒家という雰囲気がある。職員は近在の住民とお互いに協力関係を築いている。年末になると「お正月にはうちの南天を活けて！」と沢山届けて下さる住民もある。経営責任者に相談事の電話が掛かってくるのは日常茶飯事である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、認知症サポート養成講座を当所で開催しました。地域の認知症の方のご家族からの見学や相談も受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い、ケアや取り組みを広報誌と共に配布し、具体的な報告をしています。ご家族も自宅で民生委員をされている事から、話題も拡がり助言も頂け、サービス向上に活かしています。	会議には、入居者・家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員と事業所の経営責任者・管理者が出席している。事業所の取り組みや入居者の様子など詳しく報告して、活発な意見交換を行っている。野菜の育て方を教わったり、認知症行方不明ネットワーク作りについての説明を受けるなどして情報の共有化を図っている。	会議では、事業所の状況をくわしく報告され出席者と活発な意見交換が行われています。出来れば、更なるステップへの一助にヒアリハットなど個人情報に配慮しつつ報告されては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者会議や研修会、包括支援センターとの会議に参加し、運営推進会議議事録や広報誌を届け、認定更新調査にもご協力頂いています。	行政の担当者に、運営推進会議議事録や広報誌を届ける際に、事業所の実情など報告している。情報や意見交換も行い、双方で理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為について内部研修を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。あらかじめご了承の上で、階段上下の扉と昇降機の操作は、危険が伴いますので、職員が行っています。	事業所として、「身体拘束をおこなわない」ことを明確に示している。職員には、研修で周知させている。日常的に、入居者の行動を抑制するような言動を禁じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が外部研修を受講し、内部伝達学習で職員と学び、虐待が見過ごされることがないように注意し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前からも成年後見人制度を学び、活用してきました。現在も活用し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は、ご利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、ご理解、納得をして頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事参加、ご面会時にお話し、信頼関係を築きながら電話やお手紙でも連絡し、お聞きしています。議事録や広報誌をお送りし、助言も頂き運営に反映させるようにしています。	入居者の意見や要望は、日常の会話や言動などから汲み取るように努めている。家族などからの意見・要望なども来所時に聞き取っている。日常的に家族などのコミュニケーションを図り、何事も気楽に話しあえる関係作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、職員会議以外でも、日常的に聴く機会を設け、できるだけ速やかに反映させるようにしています。	日常的に、職員間で気づきなど話し合っって経営責任者や管理者に伝えている。事例によっては、職員会議で意見交換し改善に繋げている。入居者の支援方法など意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働ける様、職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員の個々のケアの実際と力量を把握しており、内部外部の研修を受ける機会や、伝達研修を行う機会、働きながらトレーニングしていく事を進めています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会の為に、研修やネットワーク作りの会議に参加させ、実習生の見学も受け入れサービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安、困っておられる事をお聴きし、できるだけご要望に応え、安心して頂けるように努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望をお聴きし、共にご利用者を支える関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族、ケアマネ等との相談で今必要とされている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、しきたりや文化、行事、礼儀作法、家事など様々な事を、教えて頂きながら日々の暮らしの中で、共に支え合う関係を築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙やご面会時、行事参加、お電話等で、ご利用者の様子をお伝えし、対応の相談を行いながら、共にご本人を支える関係を築いています。	
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、行事へのお誘いや電話での会話支援、墓参、法事参加や親類との外食支援を行っています。	退職した職員が来所することが多く、子供連れの場合も入居者は大喜びで昔話に花を咲かせている。近隣の散歩時にも、馴染みの住民と挨拶を交わしたり、庭の花を眺めたり慣れ親しんだ風景を見ながら時をすごしている。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、食卓や居間での席、家事やレクなどの取り組みを通し、孤立せず、支え合えるような支援に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、賀状やお電話を頂き、ご相談も受けています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の資料や、その後の暮らしの中で、ご本人の思いの把握に努め、できるだけ本人本位になるよう検討しています。	初回面会時に、本人や家族などから生活歴や心身状況・趣味など聞き取っている。その後は、日常生活の様子から、その人の「思い」など汲み取って記録に追記して支援に繋げている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、これまでの担当ケアマネ等からの情報により把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らし方、心身状態、力の発揮等を個人記録に集約し、現状の把握に努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、医療関係者の意見も取り入れ、2ヶ月毎の職員会議でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	個人記録から、日常の生活状況を纏め2か月ごとに開く職員会議でモニタリングを行っている。その結果と家族などや医療関係者からの情報を取り入れて介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践、結果、気づきは個人記録に集約し、毎月のまとめも全職員が関わり、情報を共有しています。会議だけでなく、日常的に意見交換を行い、介護計画の見直しに活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況は一人ひとり異なり、その時々それぞれのニーズに合わせて柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ近くにお店や、散歩中に休憩できる疎水横のベンチで交流ができ盲導犬を励ます、お地藏様のお参りができる等、本人の力を発揮できる場所がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望をお聴きし通院の方もおられます。定期、臨時往診で協力を受け、職員と家人含めた面談も行ってます。薬剤師訪問での仕分けや説明、専門医院からの往診も受けています。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重している。医療機関・訪問歯科・訪問看護などと協力関係を持ち、定期・臨時的往診を受けて24時間の健康管理体制を確保している。薬局の薬剤師とも協力関係ができ、服薬の管理を担ってもらっている。耳鼻科などの専門医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常のケアでの気づきや情報を往診や、訪問ステーションの看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院に際しては、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように、主治医、ご家族、職員との面談を行い、情報の共有を行えるよう、日頃からの関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応については指針を説明し、同意を得ています。重度化された場合にも何度も三者面談を繰り返し、ご希望をお聴きし、方針を共有しながら、チームで支援を行っています。	家族などの意向を早い段階から聞き取り、必要に応じて話し合いの機会を持っている。家族など・医療関係者・事業所とで、再度の意志を確認しながら、希望に添えるように支援している。看取りを行った事例がある。職員とも看取りに関して話し合いを重ねている。	
34		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時に備えて全職員は応急処置や初期対応の研修を受けています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、昼夜間想定での避難訓練を行っています。初期消火、通報、避難誘導(1階避難部屋や2階デッキ、外通路から道路へ等)を、誰もができるように訓練しています。	防火設備として、自動火災通報装置や非常用電源・消火器など有事に備えている。昼夜想定での訓練も定期的実施して、全職員が的確な行動が出来るように努めている。木造住宅なので1階に、緊急避難部屋や2階に広いデッキを設置している。備蓄も必要品を用意している。地域との連携も考慮して避難訓練に参加を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを配慮した対応に努めています。見学者はご利用者が居室におられる時間帯にお受けしたり、呼称や居室の名札も下のお名前のみとしています。	事業所の理念「心と体にやさしい」を表明している通り、一人ひとりの思いを大切に尊敬の念で日々の支援に努めている。プライドを傷つけないように、プライバシーを損ねないように、言葉遣いや行動に配慮している。穏やかな表情で入居者同士おしゃべりを楽しんでいる風景から優しい支援が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、ご本人の思いを表したり、自己決定できる場面をつくれるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態により、家事、散歩や取り組みの参加などで、ご本人の希望に添えるように支援しています。		
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やお化粧をされる方、お気に入りの洋服を選ばれる方、ウィッグ使用の方の手入れなども支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事献立などもご希望を取り入れ、得意な方には調理や盛り付けなどもお願いしています。職員も一緒に食卓につき、後片付けも協力して頂いています。	楽しい食事と共に健康維持も考慮したバランスのとれた献立になっている。ハレの日には、入居者の希望を取り入れている。お誕生日のお祝いにも一人ひとりのリクエストに応じて、ケーキやあんみつなど用意している。食事の支度も、できる事を職員と一緒にしている。干し柿なども作って楽しんでいる。朝・昼・夕の三食を手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養バランスを考え、水分摂取量も一日合計を記録しています。摂取方法も刻み食、ミキサー食、とろみ等状態に合わせ自力摂取できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口ゆすぎを支援し、レベルによりスポンジブラシでケアをしています。義歯の方は、就寝前洗浄し、薬剤保管をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にてトイレ使用できるように、個々のパターンを知り、早めの誘導や手すり、場所が判る案内を貼っています。トイレ内で次の動作を説明し混乱を防ぐ方や、ポータブル希望の方への支援もしています。	個人の排泄パターンを把握して、随時声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。入居時には、トレーニングパンツやバットを利用していた方も改善されて家族からも喜ばれている。布パンツの方が2名おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、個別の排便記録をとり、便秘をおこさない様に対応しています。医療連携や食事の工夫、運動への働きかけなど、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週2回当日の体調や気分に合わせて、できる方には自己洗身して頂き、できない部分を支援しています。寝たきりの方も体調に合わせて部分浴を分けたり清拭をしています。	職員は、清潔保持と共に楽しい時間になるように、一人ひとりの体調や気分に合わせて入浴介助を行っている。入浴しない日には、就寝前に足浴を行っている。時間になると、足浴の日でない入居者も靴下を脱いで待っている方もあり、職員は拒否しないで足浴をあげている。体が温まり、よく寝られると喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	頻繁に休息の必要な方にはその時々、短時間の午睡で元気になれる方や、就寝後もテレビをご希望されるには、そのようにと個別に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からは説明を受け、薬剤師からは説明と個別分配の協力を受けています。副作用を含めた症状変化に注意し、報告、相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事や花、野菜への水遣り、趣味を活かした物作り、紙芝居の読み聞かせ等、これまでの暮らしを活かせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には毎日近隣散歩に出かけています。車椅子を押しての運動や、帰りは乗られる方、腕組の方といろいろです。近隣の方とお喋りもやご家族との散歩や食事、外食に出られる方もいます。	日常的に、近在を散策している。静かな住宅街で車の交通量も少なく、安心して“ゆっくり”“のんびり”散歩が楽しめている。家々の庭からのぞいている花を眺めたり、馴染みの住民と挨拶を交わしたりその人のペースに合わせて職員は付き添っている。家族らとの外出や外食の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持されている方はおられません、使える方には、事業所の買い物の際に使って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どの方は頻りに面会に来られますが、ご本人の希望に添って、電話をかけ直接お話できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は全て床暖房の板張りですが、2階は畳の和室です。古い民家改造型なので、懐かしい雰囲気があり「ここは私の家」と言われています。庭に草花を植え、風通しも良く生活感や季節感が出ています。	表戸をくぐり玄関に入ると、知人の家を訪ねて来たような温かい雰囲気がある。リビング・食堂は、二部屋を開放しテーブルやソファを配し、広くはないが落ち着いた時間が流れているような感じがある。古民家を必要最低限度の改造で、昔の建具などそのまま残し、障子紙の小さな破れなどほほえましく生活感がある。「ホーム」ではなく、みんなの「家」になっている。不快な光や音・臭いなど感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間、庭やデッキ等、気の合う方々でお喋りされたり、花に水をあげたり、日光浴をされたりと思いいいに過ごせる居場所を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物をご持参頂くようお願いし、本箱や掛け軸、写真や家具など使い慣れたものに囲まれ、居心地よく過ごせる工夫をしています。	1階がフローリングで2階が和室となっているが、どの部屋も住人の好みの家具や飾り物で「自分らしい部屋」「私の部屋」ができています。一日をベッドで過ごされている方も、訪れる人を優しい笑顔で迎えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、職員へのコールボタンや手すり、階段リフト、声が届く工夫で、安心かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。		